

29【P2】 I -392

抗マラリア薬を志向したエンドパーオキシド類の合成～Yingzhaosu A 関連物質の合成～

○三輪 浩子¹, 西谷 潔¹, 唐沢 美帆子¹, 乙竹 祐子¹, 原 博¹, 鈴木 淳², 村田 以和夫²(¹東京理大薬,²東京都健康安全研セ)

【目的】今日、薬剤耐性マラリアの世界規模での拡散により新たな薬剤の探索が行なわれ、天然生薬よりエンドパーオキシド構造を有し抗マラリア活性化合物の **Yingzhaosu A** や **Artemisinin** が単離された。当研究室では耐性マラリアに有効な薬剤の開発の観点から、**Yingzhaosu A** 類縁化合物の合成を計画した。抗マラリア活性の向上を目指して、側鎖部分の修飾により数種の化合物を合成した。

【方法】出発原料の(-)-carvone から 2 つの経路、1) アルデヒド(1)への Grignard 反応を用いた方法、2) メチルケトン体(2)から Wittig 反応を用いる方法で目的のオレフィン(3)を合成した。次いで、(3)の光増感酸素酸化に続く Michael 反応でパーオキシド化合物に導いた。ヒト熱帯熱マラリア原虫を用いた抗マラリアの活性の検定を検討している。

